

科目名 Subject	好きをひも解く心理学 Psychology of Understanding Self & Others			教員名	堀越 詩帆	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2単位	
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30時間	
実践的教育	×					
主な学習効果	知識・技能	主体的行動力	課題解決能力	多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	美しく生きる力を実践できる能力
	◎	○	○	◎		
科目の概要	本講義では、「好き」とは何かについて考え、「好き」という感情を客観的に捉える。 近年、インターネットの普及により個々人の趣味趣向の選択肢の幅も大きく、皆が同じ流行を追っていた時代は終息に向っている。それに伴い、多様化する社会において自分と他者の趣味趣向、価値観、受け取る感情がそれぞれ異なることを理解していることは対人コミュニケーションを取る上で極めて重要なスキルであると言える。 そこで本講義では、「好き（好意）」「嫌い（敵意）」「愛着」「愛情」「自尊心」など感情に関わるテーマに焦点を当て、自己理解と他者理解の重要性を考える。また、感情の理解に付随して、対人コミュニケーションにも重点を置く。対人コミュニケーションは、誰（対象）とどのように（種類）するかによって、様々な可能性を秘めている。対人コミュニケーションにより幸福感を高める反面、ストレスや不安、悩みの要因にもなりうる。 そのため、本講義では心理テストを用い自身や他者の性格特性を理解し、グループワークを積極的に行う。そこで得られた対人コミュニケーション能力を日常的に役立てられることを期待し、心理学的アプローチから対人コミュニケーションを検討する。					
授業方法	同時双方向型授業 (Zoom) を用いた授業とする。 原則、授業中は顔を出すこととする。 講義毎にグループワークを行う。 映像資料を用い、それに対するグループワークと個人レポートを作成する。					
授業の目標	・感情について理解し説明することができる。 ・「好き」「嫌い」等、自分自身の感情を言語化できる。 ・他者の価値観や感情は自分とは異なることを深く理解し、多様な世代やジェンダーとの円滑なコミュニケーションをとることができる。					
時間外学習 （予習・復習）	各回の授業内容に関する予習を実施する。 授業で取り扱われたテーマや議題を考察し、各授業毎に提示する個別課題を行う。またその課題を元に翌授業にて個人の意見を口頭で述べられるようにする（課題提出～準備時間180分程度）。 他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しを行い、課された課題についてさらに調べ学習を行う（60分程度）。					
教科書・教材	教科書	なし				
	教材	なし				
	使用設備・備品	なし				
	参考文献	なし				
評価方法	グループワークへの参加度・態度20% 各授業後の課題40% レポート40%					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	ミニ課題については次回授業時に総括コメントを返します。					
履修上の注意	授業資料の配布や連絡はclassroomを通じて行う。授業にはGoogleスライドが問題なく編集できる端末を持参すること（必須条件）。映像資料を取り扱うため、インターネット回線の環境の良い場所から授業に参加すること。グループワークでは積極的に発言し、コミュニケーションを円滑に行うこと。授業・グループワーク進行の妨げとなるような行為が発覚した際には退出を命ずる。					
本科目履修と関連する資格	資格名	なし				

授業計画			
	授業内容	到達目標	時間外学習・備考
第1回	ガイダンス	本講義の目標を理解し、述べることができる。	心理テストの考察の仕方、レポートの書き方について予習。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第2回	心理テストを行う。 レポートの書き方について学ぶ。	自己理解と他者理解を深め、その違いを述べることができる。 レポートの書き方について理解し、実践できる。	好意、愛着、愛情について予習。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第3回	好意、愛着、愛情について学ぶ。	好意、愛着、愛情の概要を述べることができる。	ネガティブな感情について予習。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第4回	攻撃、偏見、敵意、同調などネガティブな感情について学ぶ。	ネガティブな感情の概要を述べることができる。	自尊感情、レジリエンス、自己効力感について予習。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第5回	自尊感情、レジリエンス、自己効力感について学ぶ。	自尊感情、レジリエンス、自己効力感の概要を述べることができる。	スキンシップの有効性について予習。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第6回	スキンシップについて学ぶ。	スキンシップの有効性について述べることができる。	映像資料の内容について調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第7回	映像資料の鑑賞①-1 鑑賞した内容について討議する。	映像資料を用い、自分自身に湧き上がった感情とキャラクター毎に起きた感情を言語化し述べることができる。	映像資料についてさらに調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第8回	映像資料の鑑賞①-2 鑑賞した内容について討議する。	グループワークを通じ、他者の意見を理解し述べることができる。	映像資料についてさらに調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第9回	①の映像資料を元に、 グループワークとディスカッションを行う。	レポートを共有しあうことで、一つの映像資料に対し多種多様な意見があることを理解し、述べるができる。	映像資料についてさらに調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第10回	映像資料の鑑賞②-1 鑑賞した内容について討議する。	映像資料を用い、自分自身に湧き上がった感情とキャラクター毎に起きた感情を言語化し述べることができる。	映像資料についてさらに調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第11回	映像資料の鑑賞②-2 鑑賞した内容について討議する。	グループワークを通じ、他者の意見にも関心を示すことができる。	映像資料についてさらに調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第12回	②の映像資料を元に、 グループワークとディスカッションを行う。	レポートを共有しあうことで、一つの映像資料に対し多種多様な意見があることを理解し、述べることができる。	映像資料についてさらに調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第13回	映像資料の鑑賞③-1 鑑賞した内容について討議する。	映像資料を用い、自分自身に湧き上がった感情とキャラクター毎に起きた感情を言語化し述べることができる。	映像資料についてさらに調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第14回	映像資料の鑑賞③-2 鑑賞した内容について討議する。	グループワークを通じ、他者の意見を理解し述べることができる。	映像資料についてさらに調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。個別課題と翌週授業での発言準備。他者からのフィードバックを元に、個人の意見の見直しと再度調べ学習。(240分程度)
第15回	レポートへのフィードバックと全体のまとめ。	振り返りを通じて、感情や対人コミュニケーションに対する自身の多角的な物の見え方を述べるができる。	映像資料についてさらに調べ、グループワークに向けて意見をまとめる。他者からのフィードバックを元に個人の意見の見直しと再度調べ学習。個別課題と最終レポートを作成する。(240分程度)